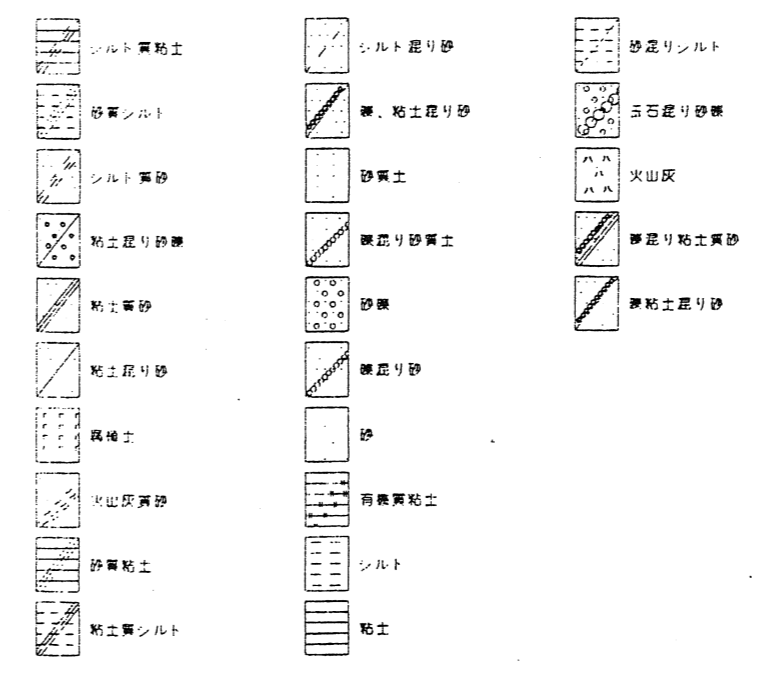


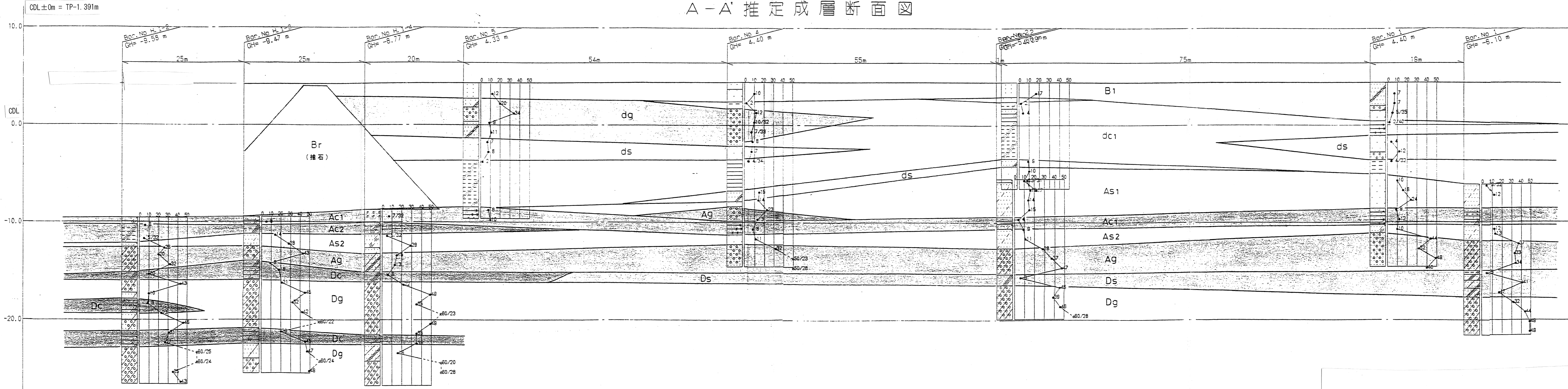
調査位置平面図 S=1:2,000

時代・区分	地層名	記号	N 値	説明
新第四紀	黄土	B	5~17 平均9	マサキから構成される層に分布する。層厚は10~1.5mである。
	プレロード	Bp	4~15 平均9	調査No.7~No.13、No.19~No.23にかけて掘削されている。砂礫を主体とする黄土である。
新第三紀	礫石	Bs	—	仮断切の礫石で花崗岩を主体とする。
	トンネルズリ	Bt	6~29 13	仮断切より上部に掘削されている。花崗岩礫石よりなる黄土を主体とする。
新第三紀	微細砂層	ds	3~13 平均6	細砂を主体とする。d5~10mm程度の礫を含有する。場所により分布状況が異なる。
	浸透第1粘土層	dc1	2~6 平均3	全体的に分布する。層厚は所により変化する。最大5mの層厚を有し砂分を含む。
新第三紀	浸透第2粘土層	dc2	2以下	プレロード部に浸透するシルトを主体とする軟弱な層厚は10mに達する。
	浸透第3粘土層	dc3	7~34 平均12	調査No.10より上部に分布する。d10mm程度の礫を含有する。層厚は10~5m程度である。
新第三紀	沖積第1砂層	As1	5~40 平均17	細砂を主体とする層で全層で浸透する。層厚は1~5mと所により変化する。
	沖積第2砂層	As2	5~29 平均14	As1層下部に分布する細砂を主体とする層である。細砂分を含有し層厚は1~2m程度である。
新第三紀	沖積第1粘土層	Dc1	4~12 平均7	礫石を多く含む粘性土でほぼ全域に分布する。層厚は1~3m程度である。層中に火山灰を含む所が認められる。
	沖積第2粘土層	Dc2	4~6 平均5	主に南側の低地帯で分布する。層厚は2m程度で砂分を含む所が見られる。
新第三紀	沖積礫質土層	Dg	13~50 平均35	ほぼ全域で認められる。d10~20mmの礫と細砂を主体とする層である。
	洪積粘土層	Dc	6~45 平均20	As層下部に分布する砂分を含む粘性土層である。層厚は約10m程度である。南側の層は浸透砂層と連続する。
新第三紀	洪積砂層	Ds	5~41 平均17	As層上部に分布する細砂を含む粘性土層を主体とする。層厚は約10m程度である。南側の層は浸透砂層と連続する。
	洪積礫質土層	Dg	16~60 平均44	d10~20mmより分布するd10~20mm程度の礫を主体とする粘性土層である。層厚は約10m程度である。南側の層は浸透砂層と連続する。

凡例



A-A' 推定成層断面図



B-B' 推定成層断面図

